

学校支援を積極的に進めよう

～子どもと保護者、保護者同士がつながる喜びを育む実践～

豊田市立前林中学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校の学区は、豊かな田園風景が広がる自然に恵まれた地域に位置しており、平坦な土地が多く、学区が広大なため、生徒の多くが自転車を利用して通学している。また、古くからの集落が点在しており、三世帯で暮らす家庭が少なくない。保護者の多くが本校の卒業生であることも大きな特徴で、二代、三代にわたって学校を見守っていただいている。こうした背景から、地域コミュニティのつながりが比較的強く、学校や P T A 活動に対する理解と協力が比較的厚い土壌がある。生徒数は 561 名（R7.10.31 時点）で、地域の方々に見守られながら、のびのびと学校生活を送っている。

2 研究のねらい

本校 P T A は、「子どもたちの応援団でありたい」という基本理念のもと、活動の精選と改善を重ねてきた。本年度は、保護者による「学校への支援」と「保護者同士の交流」という二つの側面から活動を見直し、具体的な実践を行っている。この取組により、保護者が「子どもたちの力になれた」という喜びを実感し、活動仲間との協働を通して「参加してよかった」という満足感や連帯感を得られるような、持続可能で魅力ある P T A 活動のあり方を模索している。

3 研究の仮説

- ・子どものためになる行事を取り入れることで、保護者は「参加してよかった」と感じるようになり、子どもたちと保護者がつながるきっかけになるであろう。
- ・保護者同士が共に活動する場を設けることで、「横のつながり」が生まれ、参加者の満足感や連帯感が高まるであろう。

4 研究の方法

P T A の各委員会（総務部、文化委員会、厚生委員会、育成委員会）が、学校支援につながる活動を実践し、各取組について検証していく。

5 研究の実践

（1）体育祭・授業参観でのバザー

本校は年に 2 回のバザーを開催している。収益は生徒の活動の充実に役立てている。1 回目は 5 月の体育祭での飲み物バザーで、2 年前まで前売り販売のみにしていたが、昨年行った当日販売が、参観された保護者から大変好評であったことと、学区にあるアイシン高丘株式会社様よりクーラーボックスを提供いただいたこともあり、本年度も当日販売を行った。2 回目は 11 月に開催のバザー（各家庭からの余剰品を回収し販売）で、授業参観及び学区の小学校の代休に合わせて開催している。地域の方や小学生も来場するため、多くの方にご購入いただいている。収益を子どもたちの支援に充てるという目的に加え、品物の陳列や販売活動を通して、会員同士が達成感を共有する場となっている。



体育祭での飲み物の販売

（2）生徒や保護者を対象とした SNS 研修会

近年の SNS の普及に伴い、生徒が屋外で集うことが減る一方、SNS によるトラブルが増加傾向にある。そこで、従来の学区およびその周辺のパトロール中心の活動を見直し、令和 5 年度より SNS 研修会開催へと舵を切った。令和 5 年度は、SNS の危険性について学校主催の「学



親子で学ぶ「SNS 研修会」

校保健委員会」で取り上げ、会場案内や司会をPTAが担当することで学校行事へ関わらせていただいた。令和6年度からは本研修をPTAが主催することになった。警察の方を講師に招き、保護者向けに研修会を開催した。令和7年度は生徒と保護者の両方を対象とした研修会にした。生徒と保護者が共に同じ話を聞くことで、「家庭に帰って共通の話題で話し合い、ルール決めを行うことができた。」との肯定的な感想が寄せられた。実際生徒が参加する行事を保護者が運営することで、生徒もPTAの活動を理解するようになる。終了後にPTAが椅子の片付けを行っている、自然と生徒が手伝い、片付けを通して保護者と生徒が関わる場面が見られた。

（３）リサイクル活動

本学区は20のブロックに分かれており、各地区が自治区と連携しながらリサイクル活動を継続的に実施している。各家庭がブロックごとの集積場へリサイクル品を持参するほか、生徒が各家庭をまわって資源を回収している地区もある。こうした地域を拠点とした活動を通じて、子どもたちは地域の保護者やジュニアクラブの役員と協働し、地域とのつながりを深める貴重な機会となっている。



保護者と共に行う「リサイクル活動」

（４）マラソン大会での安全の見守りや炊き出しへの支援

本校は12月にマラソン大会を実施している。公道を走るため、PTAはコースでの立哨活動を行うことで生徒の安全確保と応援を担っている。生徒が走る姿を間近で応援することができる貴重な機会となっている。また、この日は、地域でこども食堂を営んでいる前林発展会様や民生児童委員の方々による炊き出しにより、豚汁を振舞っていただいた。食材は前林発展会様からの寄付によるもので、調理に使うガスやコンロの手配をPTAで協力するようにして、子どもたちの活動を支援している。

（５）学校の生徒の活躍を広報する機関紙の発行

生徒の行事や部活動の取組、入学・卒業時のお祝いの記事を掲載した機関紙を発行している。生徒の活躍を地域の方に広報するため、本機関紙は各自治区でも回覧していただいている。生徒の活躍を地域に発信しながら、学校と地域とをつなぐ役割の一端を担っている。

6 考察

- ・バザーやマラソン大会の応援、SNS研修会など、生徒の姿や課題に直接触れる活動に参加した保護者からは、「参加してよかった」「子どもの様子がわかった」という肯定的な感想が多く聞かれた。このことから「人づての情報」よりも「実際の活動参加」が、学校への関心や理解を深めることが分かった。
- ・バザーの準備・運営、リサイクル活動などで、保護者間の自然なコミュニケーションを生む場として機能していることが確認できた。はじめは活動内容が分からず敬遠しがちであった保護者も、活動を共にする中で会話が生まれ、「横のつながり」を育む土壌となることが分かった。

7 成果と課題

（１）成果

- ・**生徒の応援意識の向上**：バザーや研修会等、生徒の活動や課題に直接触れる活動を通じ、参加した保護者の子どもへの関心が高まるとともに、生徒を応援したいという思いが高まった。
- ・**「横のつながり」の醸成**：各種活動の準備や当日の運営により、保護者間のコミュニケーションの場となり、連帯感の醸成に寄与した。

（２）課題と今後の展望

- ・**参加者の固定化とマイナスイメージの払拭**：活動の成果や楽しさが、未参加の保護者に十分に伝わっておらず、「PTA活動＝大変そう」という既存のイメージを払拭できていない。今後は、参加への心理的・時間的ハードルを下げることが求められる。
- ・**広報の工夫**：「短時間でも参加可能」「単発でも歓迎」といった参加のしやすさを、機関紙や学校の連絡ツール等でより具体的に発信し、参加の「きっかけ」をつくる必要がある。